

令和2年度 シラバス（授業計画）

教科名	芸術	単位数	2	単位
科目名	美術 I	対象学年	1	学年
科目分類	必修選択	授業形態	一斉	授業
教科書	高校美術 I（光村図書）	担当者	大橋、笠原	
使用教材	教科書、配布プリント アクリルガッシュ、鉛筆、画用紙、 木材、彫刻刀、紙やすり、卓上電動糸鋸			
学習内容	ねらい	観察を通してデッサンやドローイング、スケッチ、色彩学、画面構成、立体造形など、基礎基本の確実な定着をはかり、自己表現について考え、美的感覚を養う。		
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●鉛筆素描「瓶のデッサン」 鉛筆デッサンについての基礎を学ぶ。 モチーフである瓶をよく観察して、実物大で鉛筆デッサンをする。 光の方向、陰影の表現方法など技術力の向上と観察眼を養う。 ●水彩画「瓶のある風景」 前課題のデッサンをもとに着彩していく。 身近なものの美しさや面白さを感じ取り、明暗の色づかいについて考え、瓶の透明感、瓶が存在する心惹かれる風景を見つけ出す。 	授業時間	20
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●木彫「テープカッター」 設置する場所や使用目的から発想し、美用品としてのアーノカッターのオリジナルデザインを考える。彫刻刀の特性と彫りの基礎を学び、木の質感を観察し効果的に表現する。 目の方法を工夫する。 空間に存在する立体としての意義を考え、工芸の視点からの美しさを構想する。 素材の特性を生かしてデザインする力、早工糸鋸盤や彫刻刀を使いこなす技術力を養う。 	授業時間	24
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●絵画表現「想像して表す」 心の深層にあるイメージを呼び起こす表現に関心を持つ。 デジタルマーカーやプロジェクターなどの様々な技法によつて起こせる模様や形から発想し、内的なイメージを豊かに表現する力を育てる。 日々自分の考え、口頭で表現できない深層心理を表現し、日々を日見する楽しさを知る。 	授業時間	14
評価観点	<p>関心：主体的に創作活動に取り組み、美術を愛好していこうとする姿勢を持つ。</p> <p>発想：豊かに発想し、構成する能力を磨く。</p> <p>技能：発想したものを表現する技能を身につけ、創意工夫をする。</p> <p>鑑賞：日本美術、西洋美術、現代美術など作品の理解を深める。</p>			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●各課題の作品で評価 ●材料・用具・資料の準備、出席、授業態度での評価 <p>上記2点より総合的に評価する</p>			
備考	授業の進度は、生徒の理解度や担当者の工夫により変わるため、計画通りに展開しないことがあります。			

令和2年度 シラバス（授業計画）

教科名	芸術	単位数	2	単位
科目名	美術Ⅱ	対象学年	2	学年
科目分類	必修選択	授業形態	一斉	授業
教科書	高校美術Ⅱ（光村図書）	担当者	笠原	
使用教材	教科書、配布プリント アクリルガッシュ、鉛筆、画用紙、スクラッチ皿、ニードル、桂材			
学習内容	ねらい	多様な美術の表現に触れ、表現力・造形力を高めるとともに、想像活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたって芸術文化を愛好する心情を育てる。		
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●ボールペン画「生きものをモチーフとして」 ボールペンの線描による白と黒の表現を学ぶ。 次の課題へとつながるモチーフ（生きもの→昆虫・魚類などを含む動物、植物）の選び方や画面構成などを工夫し、線の密度で表現する。 ●スクラッチ皿「食卓を豊かにする生きものたち」 前課題の表現を踏まえ、円形の皿に合ったデザインを考える。 下図を転写、表現方法を工夫しニードル等でスクラッチし白と黒の表現で仕上げる。 	授業時間 20 時間	
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●ステンシル版画「心の中の風景」 記憶の中の風景や夢で見た風景をステンシル版画で表現する。 デザインカッターを安全に使用し、着色する部分を切り抜いていく。 ●木彫「木で作る食の道具」 木の板材から日常で使うバターナイフを制作する。 使いやすさとともに日常が少し楽しくなるようなデザインを考える。 木の特性を理解し、各種道具類、機械類の正しく効果的な使用方法を身につける。 	授業時間 26 時間	
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●水彩画（時間数によっては鉛筆デッサン）「私のいる場所」 背景（実在する場所、空想の場所どちらでも）を想定し自画像を描く。 日当たりが高い課題であるか、どのような場所にいる日かを描くかについて死なないか問われる。 自画像を描くデッサン力、作品全体の構成力、表現力の向上を目指す。 	授業時間 14 時間	
評価観点	<p>関心・意欲・態度：関心を持ち、意欲的に集中して取り組んでいるか。</p> <p>思考・判断・表現力：豊かに発想・構成し表現できたか。</p> <p>知識・技能：必要な知識や発想したものを表現する技能を身につけたか。</p> <p>鑑賞：美術やデザインされたものに対する理解が深まったか。</p>			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●各課題の作品で評価 ●材料・用具・資料の準備、出席、授業態度での評価 <p>上記2点より総合的に評価する</p>			
備考	授業の進度は、生徒の理解度や担当者の工夫により変わるため、計画通りに展開しないことがあります。			